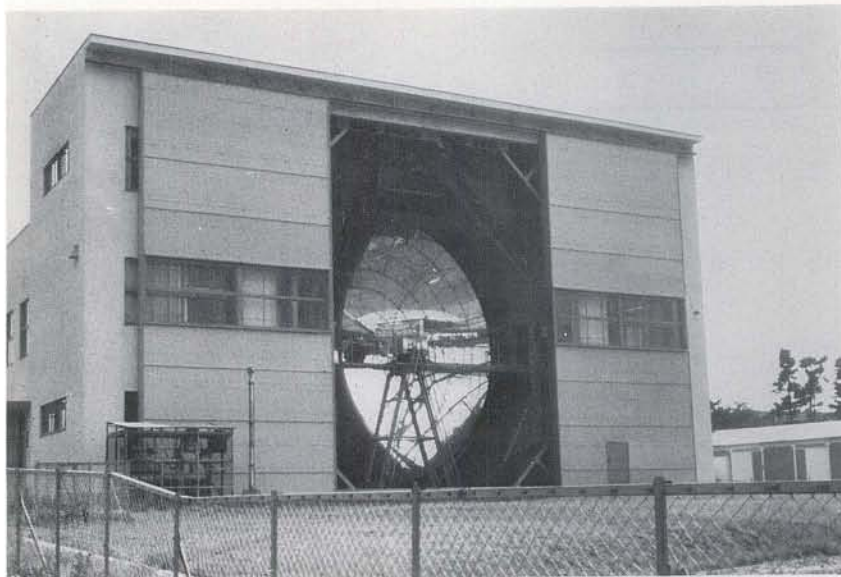


# 集合光学系の



◀ 東北大学科学計測研究所の 10m 太陽炉。  
約 250 枚の鏡を集めて放物面鏡としたもの。

同上，太陽光線を送り込むヘリオスタット ▶  
ト。これも平面鏡の集合。

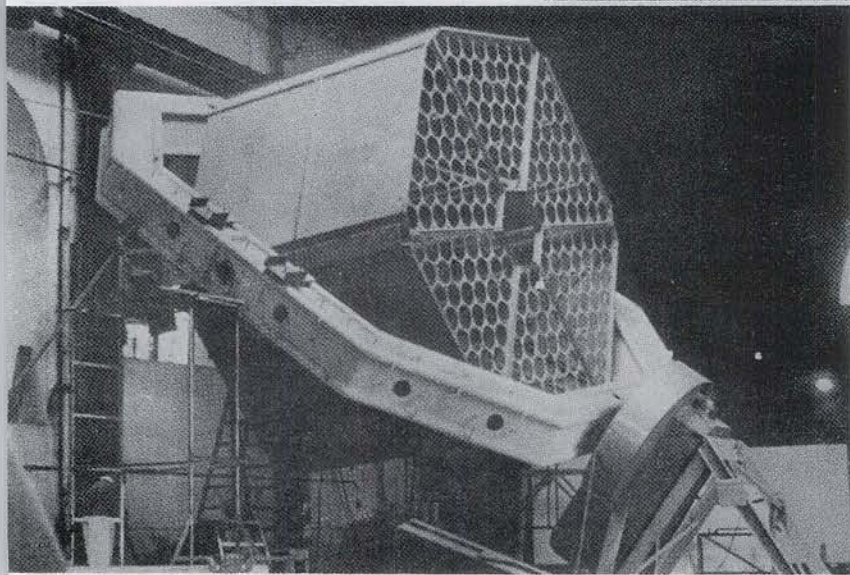
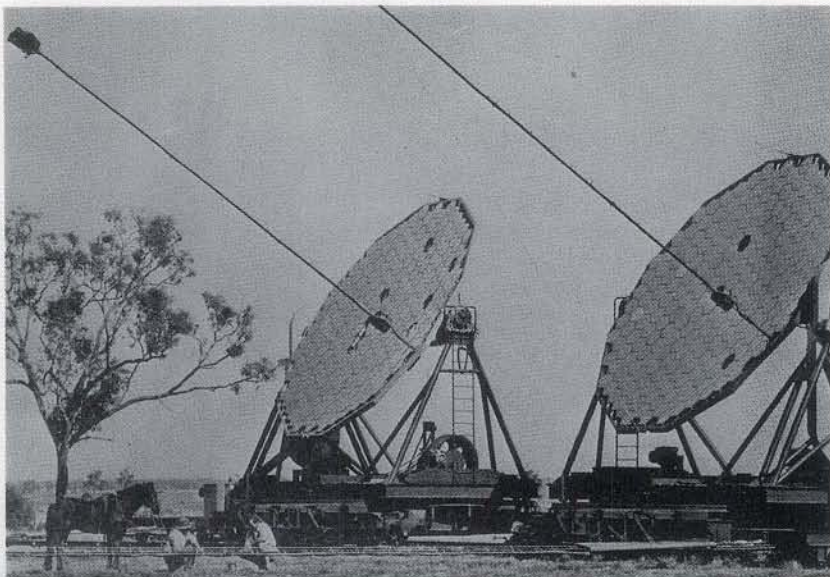


◀ 鏡の一部分。

# いろいろ

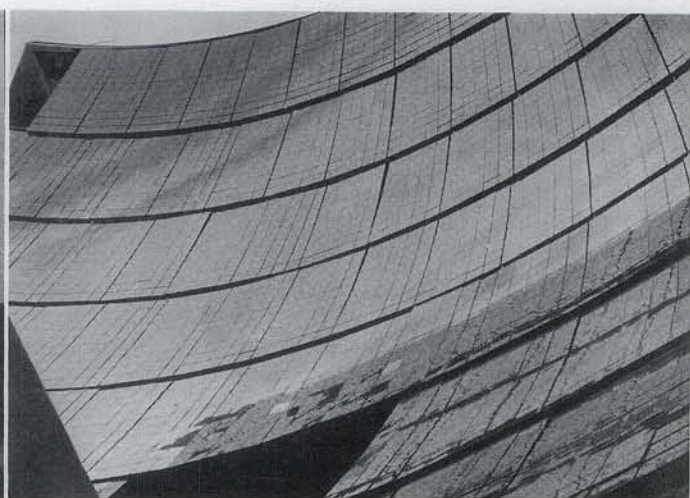
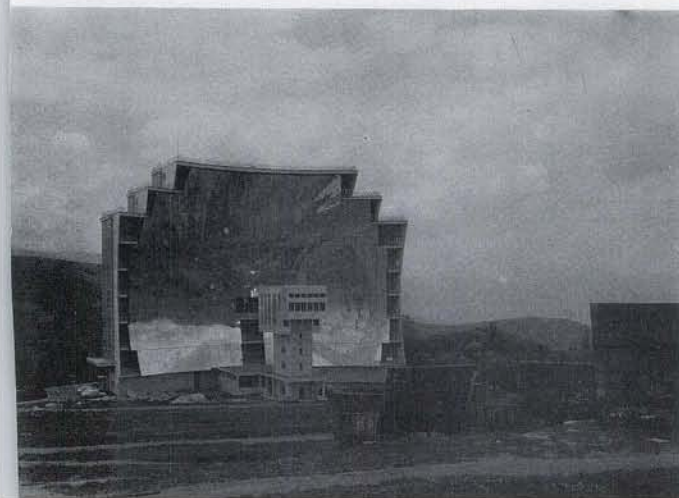
(表紙・本文参照)

▶ ハンフリ・ブラウンの恒星干渉計。約 200 枚の凹面鏡（六角形）を組み合わせて放物面鏡にしてある。円形のレールの上を移動して、恒星の直径を測定する。



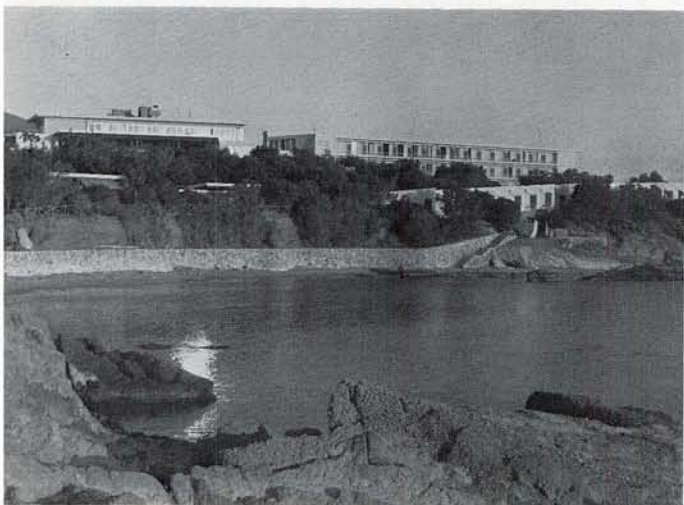
◀ フランスの月レーザ用集光集合レンズ系。210 個の  $\phi 25\text{cm}$  凸レンズを組み合わせて月からのレーザの反射光を受光する。赤道儀架台にのり、ピクドミディ天文台に設置されている。

▼ フランス科学アカデミーの太陽炉。

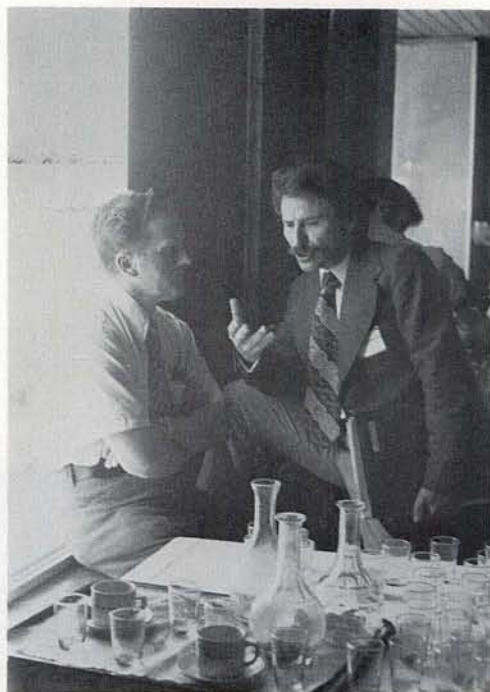


## 「人工衛星の測地学・地球力学への応用」シンポジウム

本年5月にギリシアのアテネで開催された。



▲ 会場のホテル



▲ 左フォンパン (アメリカ) と  
右ベイズ (ギリシア)



▲ 最終日のパネル討論。左からプロトキン(アメリカ)、コワレフスキー (フランス)、ジャカリア (ブラジル)、ドバチュフスカ (ポーランド)、フォンパン (アメリカ)、古在, ランドキスト (アメリカ)。

▼ 会場風景

